

「消防学校ニュース」

平成 28 年 6 月 30 日発行

◆ 校長による通常点検 – 初任科生の最初の通過点 –

初任科生が入校して 2 ヶ月半が経過しましたが、この間毎朝欠かさず通常点検を実施してきました。通常点検とは、職務遂行に必要な諸般の状況を検査し、その不備の点はこれを整備又は反復訓練の上是正し、もって消防活動に際し有効適切な措置をとらせることを目的に、人員、姿勢、服装、手帳等の点検を行うものです。毎日だった通常点検は 6 月 14 日の校長による通常点検の実施から週 1 回になり、外出も週に 1 回ですが許可されました。これから訓練は一層厳しさを増していきます。校長点検は学校に慣れてきた初任科生にとって大いに気が引き締まる最初の通過点です。

姿勢、服装の点検



◆ 初任教育 6 月の訓練

初任科の 6 月の訓練は、「消防活動訓練」ではポンプ車からのホースカーによる展長まで進みました。「機器取扱訓練」では、三連はしご操法やチェーンソー、エンジンカッターの操作訓練を実施しました。また、「訓練礼式」が終了し、「救助訓練」が始まり、ロープ渡過などを実施しました。

ロープ渡過訓練



三連はしご操法の訓練



◆ 消防長の学生激励 – 学校に来校し、昼食を一緒に –

地元消防採用直後に入校し 2 か月余、寮生活を送りながら座学・訓練に明け暮れる学生たち。地元消防をほとんど体験せずに離れている不安、訓練修了(卒業)後の職場への想い等があるかも知れません。静岡県では、毎年、多くの消防長が初任科教育の期間中(前半が多い)消防学校を訪問し、所属の学生と昼食をともにする光景が見られます。消防長は食事をしながら学生の話聞き激励します。右写真は、富士山南東消防長の激励来校の様子です(6 月 16 日)。



《消防学校歳時記》

消防学校屋内訓練場(体育館)軒下のツバメの巣で雛がかえり、子育ての真最中(6 月中旬)です。親鳥が繰り返し餌を運び、雛に与える姿が見られます。(写真右)一生懸命な子育ては、消防学校の人材育成と共通するものがあります。

